

令和五年九月二十三日 神玉祭

神 示

人間の正体は魂

その魂は 神の手の中 神魂に包まれ

「心の道」に生き続ける

「魂の真実」を知る人々は

必ず神魂の運命を求め 精神世界に生きる存在

信者に申す

今年の「人生の姿」を見詰め 迎えた光寿の月間

愛礼の参拝を大切に

神魂との出会いを深める誓いが必要

この誓いが深まるほど

人間の心は「運命」に重なり

悩み 迷う思いは消える

この姿が 「心の道」を太く 強くする

仏・先祖の魂も 安心 安定

先祖供養の真理が ここにある

信者は 家族で「神玉里」「神玉園」に参拝し

「和のある家庭」の真実を

仏・先祖に届ける 供養の孝が大切

神玉祭——光寿の月間に重なる神玉の期間を

家族と心重ねて参拝すべし

家族と心重ねて歩む「愛」が 仏・先祖の魂を供養する

光寿信者参拝時は、「神玉祭」の期間でもあります。「愛礼の儀」で神魂に感謝の真心を届けたなら、同時に仏・先祖にも家族一人一人の思いを伝えることが、まことの供養となります。この「仏」とは、自分が認識している故人であり、「先祖」とは、さらに前に生きた人々です。

人間の正体は、魂です。その魂は、今生を生き抜いた後も、神魂に包まれ、心の道に永遠に生き続けます。これは、神魂のご守護あればこそ、かなうことです。

そうした精神世界に目を向けることもなく、損得や勝ち負けにこだわり、金、財産、地位、肩書などにこだわって生きていては、仏・先祖の魂は、全く安心できません。心を大切に生きることです。

光寿信者参拝時を迎えたなら、まずは、深い感謝の真心を神にささげる、「愛礼の心」で参拝しましょう。そこに、神との絆が深まり、悩み、迷う思いも消え去ります。そのように神との絆が確かなものとなって初めて、仏・先祖の魂も、安心、安定します。これこそが、まことの先祖供養なのです。

こうしたことを踏まえて、玉（遺骨）を納めている人は神玉里、神玉園に、そうでない人は安明殿、安明の間に参拝し、心の通い合った家族の姿を、仏・先祖に届けることが大切です。9月23日から11月15日の期間には、家族そろって心を重ね、神総本部、偉光会館へと必ず参拝しましょう。